

2006年7月メキシコ選挙

亀裂を深めるメキシコ社会

星野妙子

はじめに

2006年7月2日の選挙は、大統領、上下院議員をはじめとする主要な政治ポストが総入れ替えとなる一大政治イベントであった。注目の大統領選挙は、連邦選挙庁(IFE)の判定では、与党国民行動党(PAN)のフェリペ・カルデロン候補が左派連合のアンドレス・マヌエル・ロペス・オブラドール候補に対し0.58%の僅差で勝利した。しかし左派連合は判定を不服として選挙裁判所に異議申し立てを行い、すべての票の数え直しを求めて大規模な抗議運動を繰り広げた。運動は日を追って先鋭化し、メキシコ社会に過去に例をみない深い亀裂を生じさせた。以下に今回の選挙を振り返り、その特徴を論じてみたい。

1 マスメディア頼りのイメージ選挙

今回の選挙で争われたのは、大統領、上院128・下院500の全議席、メキシコ市長、グアナファート、ハリスコ、モレロスの3州知事、それにいくつかの地方自治体の首長と議会議員のポストであった。

焦点となったのは大統領選である。6年前の前回、それまで70有余年政権を独占してきた制度的革命党(PRI)が破れ、史上初めてPANフォックス政権が誕生する画期的な選挙となった。国民の

大きな期待を集めて大統領に就任したフォックスであったが、政治的指導力の欠如と親族の汚職疑惑によって、政権末期には支持率は低迷していた。もっとも、指導力を発揮できなかった最大の要因は、少数与党のために議会で野党によって重要法案の成立をことごとく阻止されたことにあり、下院議席がPRI 40%、PAN 30%、左派の民主革命党(PRD) 19%の比率で構成されている状況においては⁽¹⁾、どの党が政権を取っても同様の事態が生じる可能性があった。このようにPANへの期待が急速にしぼむ状況下で実施された選挙であったことから、国民の次なる期待がどの政党、どの候補者に向かうかが注目された。

大統領選には与党PANからは前党首でフォックス政権ではエネルギー相を務めたフェリペ・カルデロンが、PRIを主体とする中道連合(他に小政党の緑の党 PVEM が参加)からは前党首のロベルト・マドラッソが、PRDを主体とする左派連合(他に小政党の労働党 PT とコンベルヘンシア党が参加)からは前メキシコ市長のアンドレス・マヌエル・ロペス・オブラドールが立候補した。ちなみにロペス・オブラドールはかつてPRI 党員であったが、PRIと袂を分かち1989年PRDの結成に参加、94年にはタバスコ州知事選をPRI候補のマドラッソと争い敗北している。この選挙ではマドラッソの不正疑惑が取りざたされた。このような経緯からロペス・オブラドールとマドラッソにとっては因縁

の対決となる選挙であった。

選挙戦は1月19日から160日の長期にわたり戦われた。その特徴として、マスメディアを総動員したイメージづくり偏重の選挙戦であったことが指摘できる。連日、テレビ、ラジオ、新聞を通じて、相手方候補に対する誹謗中傷を含む大量の広告が流された。ちなみにテレビに流れた選挙広告は件数で8189件、時間で1900万秒、ラジオは40万2645件、820万秒、各陣営が新聞、テレビ、ラジオに支払った費用は、PRI率いる中道連合が2億2990万ペソ、PANが1億8330万ペソ、PRD率いる左派連合が1億7800万ペソに上った⁽²⁾(1ドルおよそ11ペソ)。

イメージづくりがいかに重要であったかは次のような事実からうかがい知ることができる。選挙戦を中盤までリードしたのはロペス・オブラドールであった。民間調査会社ミトフスキーの3月の支持率調査では、ロペス・オブラドール37.5%、カルデロン30.6%、マドラッソ28.8%の結果が出ている⁽³⁾。優勢を確信したロペス・オブラドールは、連邦選挙庁が4月25日に主催した第1回目の大統領候補のテレビ公開討論会を欠席した。このことが傲慢とのイメージを与えたことと、ロペス・オブラドールをベネズエラのチャベス大統領になぞらえる他陣営からの攻撃によって、ロペス・オブラドールの支持率は下落、選挙戦後半でカルデロンに対し逆転を許した。これを教訓としてロペス・オブラドールは6月6日の第2回テレビ公開討論会には万全の態勢で臨んだ。一方、カルデロンにとってフォックス政権の不人気は選挙戦の障害となった。フォックスとの違いを印象づけるために、選挙キャンペーンの責任者にフォックス政権の社会開発相であったホセフィーナ・バスケス女史を起用した。彼女の起用は、カルデロンが貧困対策を重視していることを選挙民にアピールするのに大いに力があつたといわれている⁽⁴⁾。

危機感をもって選挙戦終盤に臨んだことでロペス・オブラドール候補への支持は持ち直し、カルデロン候補と勢力伯仲するなかで選挙戦は幕を閉じた。

2 PRIの凋落、PANとPRDへの支持者の二極分化

7月2日の投票は大きな混乱もなく実施された。今回の選挙では新しく、海外居住者にも大統領選での投票が認められた。海外からの選挙登録者数4万876人中3万3131人が投票した⁽⁵⁾。設置された投票所、投票箱の数は13万488カ所、31万9000箱に上った。693人の外国人と2万4769人のメキシコ人が選挙を監視した⁽⁶⁾。

開票結果は次のとおりである。

表1は大統領選の開票結果である。有権者総数7137万人、投票率は58.55%。第1位のカルデロンと第2位のロペス・オブラドールの差は有効投票総数に占める比率で0.58%、投票数では24万3934票の僅差となった。マドラッソは他2人に大きく差をつけられ敗北した。

表2は上院下院議員選の開票結果である。上院下院ともPANが有効投票総数の33%台を獲得し第1党となった。注目される点は、大統領選の得票結果と比べてPANと左派連合の得票率の差が大きいことである。左派連合はPANに対しおよそ4%のリードを許している。大統領選には多分に候補者の個人人気は反映されやすいのに対し、上院下院選の特に小選挙区の場合、地域の政治的利害が反映されやすく、このような差が生じると考えられる。注目される第2の点は、ここでもPRI率いる中道連合が得票率を大きく落としたことである。ただし大統領選ほどのものではなく、第2位の左派連合との差はわずかである。

表1 大統領選挙の開票結果

候補者名	得票数	得票率 (%)
カルデロン (PAN 候補)	15,000,284	35.89
ロペス・オブドール (左派連合候補)	14,756,350	35.31
マドラソ (中道連合候補)	9,301,441	22.26
PASC 候補	1,128,850	2.70
PNA 候補	401,804	0.96
有効投票総数	40,886,718	100.00
無効票	904,604	
投票総数	41,791,322	
有権者登録総数	71,374,373	
投票率	58.55 %	

- (注) (1) 連合の構成は次のとおり。
 中道連合 (正式名称は「メキシコのための同盟：La Alianza por México」) の構成は PRI と PVEM。
 左派連合 (正式名称は「すべての人の福利のために：Por el Bien de Todos」) の構成は PRD, PT, コンベルヘンシア。
 (2) 政党の正式名称は以下のとおり。
 PNA : Partido Nueva Alianza
 PASC : Partido Alternativa Socialdemócrata y Campesina
 (3) 政党の得票率を合計しても 100 % とならないのは、この他に選挙登録されていない候補者の名前を記入した票が有効投票に含まれているため。
 表2 以下についても同じ。
 (出所) IFE, *Resultados del cómputo distrital*. (http://www.ife.org.mx/documentos/computos_2006/centrales)
 2006年9月4日閲覧)

表2 上院下院議員選挙の開票結果 (%)

	上院得票率		下院得票率	
	1人区	比例代表	1人区	比例代表
PAN	33.54	33.63	33.39	33.41
左派連合	29.69	29.70	28.99	28.99
中道連合	28.07	27.99	28.21	28.18
PNA	4.05	4.04	4.54	4.55
PASC	1.90	1.91	2.05	2.05
有効投票総数	40,410,038	40,254,454	40,491,561	40,740,318

- (出所) IFE, *Resultados del cómputo distrital*. (http://www.ife.org.mx/documentos/computos_2006/centrales)
 2006年9月4日閲覧)

比例代表の議席は得票率を基に少数政党の比重を高めて配分される。表3にIFEによる議席配分の結果を示した。上下院の議席数の順位は、それまでのPRI, PAN, PRDからPAN, PRD, PRIの順へと置き換わった。ただし議席が3党に分散している状況は大きく変わっていない。ちなみに下院における第1党から第3党までの議席数の比率はそれまでの40%, 30%, 19%から41%, 25%, 20%へと変わったにすぎない。つまり議会での法案の通過が、野党の合意なしにはできない状況に変わりはない。PRIは第1党から第3党へ転落したもののキャスティング・ボードを握るといって依然として大きな影響力を保持しているといえる。

次にメキシコ市長選挙であるが、左派連合のマルセロ・エブラール候補が46.37%の得票率を得て圧勝した(表4)。同時に行われたメキシコ市の16の区の区長選では、14の区で左派連合が、二つの

表3 上院下院の新しい議席配分 (人)

	上院			下院		
	1人区	比例代表	合計	1人区	比例代表	合計
PAN	41	11	52	137	69	206
PRD	27	6	33	90	36	126
PRI	23	6	29	63	41	104
PT	0	2	2	3	13	16
PVEM	2	4	6	2	17	19
コンベルヘンシア	3	2	5	5	11	16
PNA	0	1	1	0	9	9
PASC	-	-	-	0	4	4
合計	96	32	128	300	200	500

- (注) 政党の正式名称は以下のとおり。
 PAN : Partido Acción Nacional
 PRD : Partido de Revolución Democrática
 PRI : Partido Revolucionario Institucional
 PT : Partido de Trabajo
 PVEM : Partido Verde Ecologista de México
 コンベルヘンシア : Partido Convergencia
 (出所) *El Financiero*, 24 de agosto de 2006.

区でPANが勝利した。

メキシコ市(正式にはメキシコ連邦特別区)議会議員選挙の結果は表5に示すとおりである。得票率ではPRD主体の左派連合49.91%, PAN 24.97%, PRI主体の中道連合12.76%で、左派連合の圧勝であった。小選挙区では左派連合が40議席中36議席を獲得した。PANはかろうじて4議席を、中道連合に至っては1議席も獲得できなかった。中道連合は2位以下の政党へ得票率に応じて比例配分される議席で8議席を得たにとどまる。PRIはメキシコ市において壊滅的な打撃を受けたといっている。

ハリスコ州、グアナファート州、モレロス州の知事選では、ともにPAN候補が勝利した。ちなみ

に、いずれも前任者から引き続いてのPAN州政府となる。

選挙の結果を要約すれば、PRIの凋落、PRDの躍進、PANの堅調となろう。PRIの凋落の要因として二つの点を指摘できる。第1にマドラッソ個人にPRI体制の腐敗したイメージが付きまとったことである。前述のタバスコ州知事選での不正選挙疑惑はその具体例といえる。第2にPRI内部でのマドラッソと、元書記長で労働界において絶大な影響力をもつ教員組合(SNTE)の委員長エルバ・エステル・ゴルディーヨ女史との確執である。ゴルディーヨはPRIを離脱、自らの党・新しい同盟(PNA)を結成して選挙に参戦しPRI票を奪うことでマドラッソに一矢報いた。

PRDの躍進をどのように理解すればいいのか。中道のPRIが凋落し、右のPANと左のPRDの両極へ選挙民の支持が分かれる現状を、豊かな北と貧しい南の対立という図式でとらえる見方がある。この点に関して『エル・フィナンシエロ』紙は「両極化」をテーマに興味深い分析を行っている。それによればPANとPRDは大統領選の総得票数のともに半分強を、全国32州(連邦特別区=メキシコ市=を含む)のうちの人口周密な7州(メキシコ市、メキシコ州、ベラクルス州、ハリスコ州、グアナファート州、ヌエボ・レオン州、プエブラ州)から得ている。また総得票数のうち特に高い比率を占める州は、PANがハリスコ州(得票数の9.8%、以下同じ)、グアナファート州(7.8%)、ヌエボ・レオン州(6.0%)、プエブラ州(5.1%)、PRDがメキシコ市(20.0%)、メキシコ州(17.4%)、ベラクルス州(6.9%)であった。つまり必ずしも北と南の対立という構図にはなっていない。また、メキシコ市は1人当たりGDPにおいても人間開発指数においても32州中第1位を占める。つまり豊かな州と貧しい州の対立という構図ともなっていない。貧しい階層がPRD

表4 メキシコ市長選挙の開票結果

	票 数	得票率(%)
左派連合	2,215,147	46.37
PAN	1,302,097	27.26
中道連合	1,031,334	21.59
PNA	109,133	2.28
PASC	50,482	1.06
無効票	69,011	1.44
投票総数	4,777,204	100.00

(出所) IEDF, *Resultados de las elecciones locales del 2 de julio de 2006.* (http://www.iedf.org.mx/DEOyGE/Resultados_PEL2006 2006年9月3日閲覧)

表5 メキシコ市議会議員選挙の開票結果と議席配分

	開票結果		議席配分		
	票 数	得票率(%)	1人区	比例配分	合計
左派連合	2,384,121	49.91	36	0	36
PAN	1,192,845	24.97	4	12	16
中道連合	609,583	12.76	0	8	8
PNA	324,021	6.78	0	4	4
PASC	182,214	3.81	0	2	2
無効票	84,034	1.76			
投票総数	4,776,818	100.00			

(出所) *El Financiero*, 24 de agosto de 2006.

へ投票し、豊かな階層がPANへ投票したとは必ずしもいえない、というのが特集のメッセージである⁽⁷⁾。同じ傾向がメキシコ市の選挙結果からもうかがえる。メキシコ市の行政区のなかで南部に位置するトラルパン、コヨアカン、アルバロ・オブレゴンは比較的豊かな階層が住む地域である。これらの区においても50%以上の得票率でPRD候補が区長に当選している。PRDの躍進の背景には、よく指摘される経済のグローバル化の下での格差拡大のほかにも、現政権への批判、ロペス・オブラドールのメキシコ市長時代の政治手腕への評価、地域主義などさまざまな要因が存在すると考えられる。今後の分析が待たれるところである。

3 民主主義の試練

大統領選において僅差で次点と判定されたロペス・オブラドール陣営は7月9日、投票・開票に数々の不正があったとして、全票の数え直しを求める

訴えを全国5カ所の地区選挙裁判所に起こした。連邦選挙法には全票の数え直しを認める規定はない⁽⁸⁾。連邦選挙裁判所(TEPJF)は8月5日に全票数え直しの要求を棄却し、代わりに全投票所のおよそ9%にあたる1万1839投票所での票の数え直しを認めた。8月28日にTEPJFは票の数え直しの結果、PRDの訴えにあるような不正行為は認められなかったとの判決を判事全員の一致で下し、9月5日にはカルデロンの大統領選勝利を最終的に認定した。

選挙裁判所への提訴ののちにロペス・オブラドール陣営とその支持者は、全票数え直しを要求するため、ならびに裁判所判事に圧力をかけるために、デモ行進や集会、道路や公共施設の占拠などの方法で抗議運動を繰り広げた。7月16日の憲政広場での大集会では主催者発表で150万人、警察当局発表で110万人の支持者が、7月30日の同じく憲政広場での大集会には主催者発表で300万人近く、警察当局発表で200万人の支持者が集まっ



憲政広場での民主国民会議のもよう(2006年9月16日筆者撮影)

ている⁽⁹⁾。例年大統領が議会で年次教書を報告する9月1日には、PRDの議員が議会の壇上を占拠したことから、フォックス大統領は議会での報告を断念、急遽ビデオ録画のテレビ放送に切り替え、国民に直接語りかけるという前代未聞の事態となった。また、例年独立記念日の前日9月15日の深夜には、憲政広場で大統領が大統領府から独立の叫び(グリート)を上げる記念式典が催されるが、混乱を恐れた連邦政府は式典前日に予定を変更、今年は大統領のグリーートの場所を革命発祥の地グアナフアート州イダルゴに移し、憲政広場のグリートはロペス・オブラドールの後を受けたエンシエナ代理市長が執り行うという異例の事態となった。さらにロペス・オブラドール陣営は9月16日の独立記念日に憲政広場で民主国民会議と銘打った大集会を開催した。集会ではカルデロンの大統領就任を認めず、ロペス・オブラドールが正当な大統領であるとの決議が、主催者発表でおよそ126万人の参加者によって決議された⁽¹⁰⁾。

ロペス・オブラドールに不利な材料は、ほとんどの選挙監視員、特にヨーロッパからの監視員が公正な選挙であったと宣告していることである。選挙に不正があったと主張しているのは二つのNGO、米国のグローバル・イクスチェンジとメキシコのアリアンサ・シビカに限られている⁽¹¹⁾。1988年の大統領選挙では同じ左派連合のクアウトモック・カルデナスがPRIのカルロス・サリナスに破れた。この時は、カルデナス優勢を示すコンピュータの画面が突然「故障」するなど、不正の疑念が色濃い選挙であった。しかしカルデナスは街頭での抗議運動の道を選ばず、それによって威信を高めたという。1988年時よりはるかに不正の疑念が小さいにもかかわらずしぶとく街頭運動を繰り広げるロペス・オブラドール陣営に対し、PAN、PRIの支持者は不信感、不快感を強めている。大統領

選を機に、メキシコ社会は亀裂を深めたといえる。

ロペス・オブラドール陣営は今後も抗議運動を続行していくと宣言している。仮に大統領選の混乱がなんらかの形で收拾されたとしても、議会における議席が三分されている状況においては、今後も事あるごとに、対立、混乱が生じるであろう。1980年代に始まるPANの台頭、PRIの分裂を出発点と考えれば、メキシコの民主化は20年近い歩みを重ねてきたことになる。複数政党制が定着しつつあるなかで、はたして政治の安定がかなうのか。メキシコは民主主義の試練の真ただ中にあるといえよう。

注

- (1) 出所は、メキシコ下院ホームページ(http://sitl.diputados.gob.mx/album_comisiones/composicion_politicanp.asp 2006年9月5日閲覧)
- (2) *La Jornada*, 2 de julio de 2006.
- (3) 『通商広報』2006年4月5日。
- (4) *Latin American Regional Report, Mexico & NAFTA*, July 2006, p.3.
- (5) 出所は、IFE, *Resultados del cómputo distrial de la elección de presidente de los Estados Unidos Mexicanos de 2006 por entidad federativa (Voto de los mexicanos residentes en extranjero)* (<http://www.ife.org.mx/documentos/computos2006/centrales/ReportePresidenteEUMExt>. 2006年9月5日閲覧)
- (6) *La Jornada*, 2 de julio de 2006.
- (7) *El Financiero*, 10 de julio de 2006.
- (8) 『通商広報』2006年7月13日。
- (9) *La Jornada*, 17, 31 de julio de 2006.
- (10) *La Jornada*, 17 de septiembre de 2006.
- (11) *Latin American Regional Report, Mexico & NAFTA*, July 2006, p.10.

(ほしの・たえこ / 地域研究センター主任研究員)